

1 題材 鑑賞 琳派 ～尾形光琳の表現技法について学ぶ～

2 指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは、大和絵や絵巻物の鑑賞において、日本絵画のよさや特徴について学習をしてきた。そこでは、平安時代の歴史や文化に着目しながら、絵巻物のよさや美しさについての鑑賞を行ってきた。このような子どもが、江戸時代の琳派の作品の鑑賞においても、歴史や文化に着目し、時代や作者の違いによる技法や特徴に関心をもち鑑賞に取り組めば、様々な表現や鑑賞に対する想いを深めていけることだろう。そこで、次のような題材を設定する。

＜題材について＞

本題材は、琳派の作品の鑑賞において、造形的なよさや美しさを捉えることができる題材となっている。ここでは、作品の印象やインスピレーションを感じ取りながら、作品をより深く鑑賞し、作者の思いや人生、表現方法（タッチ、描画材等）、歴史的背景など様々な視点から作品に関する情報を得て、その内容について自らの考えを言葉にすることが大切である。そこで、作品の比較・検討をする活動を設定する。子どもは、作品を比較・検討しながら、作品についての自他の意見を共有し、新たな見方を発見するだろう。

そのような学びを実現するために、指導にあたっては、次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

- 題材の前半において、作品の比較を行い、両者のよさや特徴について学ぶ。実際に絵を比較し、作品の共通点や相違点を知り、中国美術の日本への影響について考える場面を設定する。そうすることで、琳派の表現や技法について、より深く理解することができるようにする。
- 題材の半ばにおいて、琳派の作品の表現方法に考えるだけでなく、当時の技法、材料について学習する。そうすることで、日本独自の和紙や岩絵の具についての特徴に気づき、材料が持つよさや独特の表現について生徒が、考察を重ねながら鑑賞をより深いものにすることができるようにする。
- 題材を通して、琳派の箔表現について考える場面を設定する。そうすることで、制作意図や特徴をより明確にし、より深く理解することができるようにする。

3 目標

- (1) 琳派の作品の歴史的意義や表現技法、材料について知り、実際に体験しながら理解することができる。 【知識及び技能】
- (2) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図などについて考えるなどして美意識を高め、見方や感じ方を深めること。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取ることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

4 指導計画（総時数 2 時間）

次	学習活動・内容	題材の指導上の留意点
一 ①	○ 琳派の作品の特徴（主題、技法などの特徴）について学習する。 ・俵屋宗達、尾形光琳、酒井抱一の作品鑑賞 ・琳派と大和絵の違いについて ○ 琳派の作品技法について学習する。 ・たらし込み、金箔、銀箔について	○ 琳派の作品の特徴について学習する。そうすることで、室町美術から江戸時代までの日本の絵画の変遷についての各年代の特徴について理解できるようにする。 ○ 琳派の表現技法について体験しながら学習する。そうすることで、大和絵などとの違いに実感をもちながら理解できるようにする。
二 ① 本時 1 / 1	○ 銀箔の焼きについて、学習する。 ・箔の変化の確認 ● 琳派の表現技法を狩野派の作品と比較する。 ・《紅白梅図屏風》の鑑賞 ・尾形光琳と狩野派の作品の比較	○ 銀箔の焼きを行いどのような変化が起こったか確認をする。そうすることで、変色する前の元の色がどうだったか、作品全体のイメージができるようにする。 ○ 琳派の表現技法（たらし込み、光琳の波の表現について）について考える。そうすることで、同時代の狩野派の作品との違いを学び、デザイン性や装飾性の高い作品であることに気付くことができるようにする。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。 ②造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	①造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図や工夫について考えるなどして、見方や感じ方を広げている。 ②調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図や工夫について考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	①美術の創造活動の喜びを味わい作品や美術文化などの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 ②造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて、考えようとしている。

6 本時案 ー第二次・1時分ー

(1) 主眼 尾形光琳の《紅白梅図屏風》の鑑賞を通して、作品のよさや魅力を理解することができる。

(2) 準備 ワークシート

(3) 学習の展開

学習活動・内容	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1 前時の学習を振り返る ・琳派の特徴 ・狩野派と琳派	ア 江戸時代につくられた作品 イ たらし込みの技法が使われている ウ 金箔などを背景に貼っていることが多い エ 絵画だけでなく書や陶芸の作品もあった	・ 歴史的事実や技法について振り返ることで、本時の活動で実際にどうなっているか認識できるようにする。	5
2 銀箔を実際に焼く ・模様の確認	ア 銀箔の部分がきれい イ 銀箔の部分が黒くなって波の模様が浮き出て見える ウ (実寸大の絵は) とても線が細いということが分かった	・ 銀箔の上の硫黄の粉をきれいに取り除き、模様がどのようにできているか観察させることで、尾形光琳が波をどのように表現したのか考察できるようにする。	20
3 尾形光琳の作品を鑑賞する ・尾形光琳の作品の変遷 (《紅白梅図屏風》 《燕子花図屏風》 《八つ橋図屏風》など)	ア 初期の作品は狩野派の作品に類似している イ 花のパターンが似ている部分がある ウ とても鮮やかな絵の具が使われていることが分かった	・ 《紅白梅図屏風》の技法や描き方の特徴を学ぶことで作者の思いや工夫に気付くことができるようにする。	40
4 本時の学習を振り返る ・学習の成果と課題	ア 《紅白梅図屏風》の表現技法についてよくわかった イ 《紅白梅図屏風》の特徴がよく分かった ウ 実物と写真では質感や見え方が異なることが分かった	・ 作者の意図や心情に着目して振り返らせることで、作品のよさに気づくことができるようにする。	50

(4) 評価規準と方法

琳派の作品の特徴や技法について理解し、実際に描画を通して作品の特徴について考え、作品のよさに気がつくことができているか、発言やワークシートの記述からみとる。

<メモ>